

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所このみ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年 1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月7日		～ 令和7年 2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・日々の活動プログラムの立案をチームで行っていること	・その日の天候や利用児童メンバにに応じて、楽しめる活動内容をメンバーで検討し提供している。近場にある公園を活かし、身体を大いに動かして楽しめる遊びの提供も実施している。またデイ合同お楽しみ会を実施し、このみ利用者(生活介護、就労継続B型)の皆さんと一緒にお店屋さんごっこを行い、実際にお金を使用し買い物体験も行った。	・どうしても雨の日の活動内容がパターン化することが多いため、室内で出来る遊びの情報収集や、課題等の内容等を充実させていきたい。
2	・「CONOMIのじかん」を開催し、地域の方々との交流の機会を設けていること	・「CONOMIのじかん」という放課後等デイサービス利用の子どもたちがメインとなるようなゲームや作って遊ぼうコーナー、模擬店を実施した。近隣の保育所や、児童館、放課後等デイサービスなどの各施設にポスター掲示を依頼。当日はポスターを見て来てくださった地域の方や別の放デイの児童が来場し、このみを知ってもらえる良い機会となった。またボランティアにも多く参加していただき、児童との交流の場にもなったと思われる。	・今回、近隣の放課後等デイサービスの事業所にのみお知らせを行ったが、普段から送迎等で別事業所と顔を合わせることも多いため、その機会を活用し多くの放デイに「CONOMIのじかん」の開催を周知していくのも良いと思われる。
3	・非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を実施していること	・全利用児童を対象に、年に1回は避難訓練を実施し、避難時における移動方法(姿勢を低くしながら移動することや、ハンカチの装着など)を意識できるよう伝えている。	・今後も年1回の避難訓練の実施は継続していきたい。また、身近な感染予防対策として手洗いの仕方などの取り組みも検討していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・父母の会の活動支援、保護者同士の交流の機会が設けられるなどの家族の支援について	・保護者同士の交流の機会の場が設けられていない。	・「CONOMIのじかん」の模擬店で保護者ブースを設けるなど、行事内での交流の場の検討をしていきたい。
2	・家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)や家族等も参加出来る研修会や情報提供の機会について	・職員のみでは対応力不足も否めない。	・ペアレント・トレーニングについての知識を高めていくため、研修図書の活用や研修の機会を設けていく必要がある。またより専門的な知識を保護者にもってもらうためにも、難しいケースの保護者には外部講師を招き、相談できる場の提供を行うことを視野に入れ支援していく。
3	・放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会の有無について	・日頃から児童館などの利用は行っているが、児童館を利用している児童との交流の機会はなかった。	・長期休暇中に地域のイベントへの参加の検討や、「CONOMIのじかん」の開催時に、近隣の放課後児童クラブや児童館にポスター掲示等を依頼し、周知していく。